

もっと! みるみる心電図

見てわかる。みるみるわかる。

執筆 ● 村川裕二
(帝京大学溝口病院 第四内科 教授)
田宮栄治
(江東病院 循環器内科 副院長)

心電図は呼吸器疾患や電解質異常など、心血管系以外のことも教えてくれます。心電図を「小さい窓」でなく、「大きな窓」として活かすにはどうすればいいか、「もっと!」楽しみながら学んで行きましょう。

連載第7回

正常心電図

症例 1

20歳台から高血圧症と脂質異常症があり、約25年前に冠動脈バイパス術を受けた81歳男性。約半年前から軽度の労作で胸痛があるため、来院した。
● 既往歴・家族歴：特記すべきことはなし。
● 生活歴：喫煙20本/日×35年。

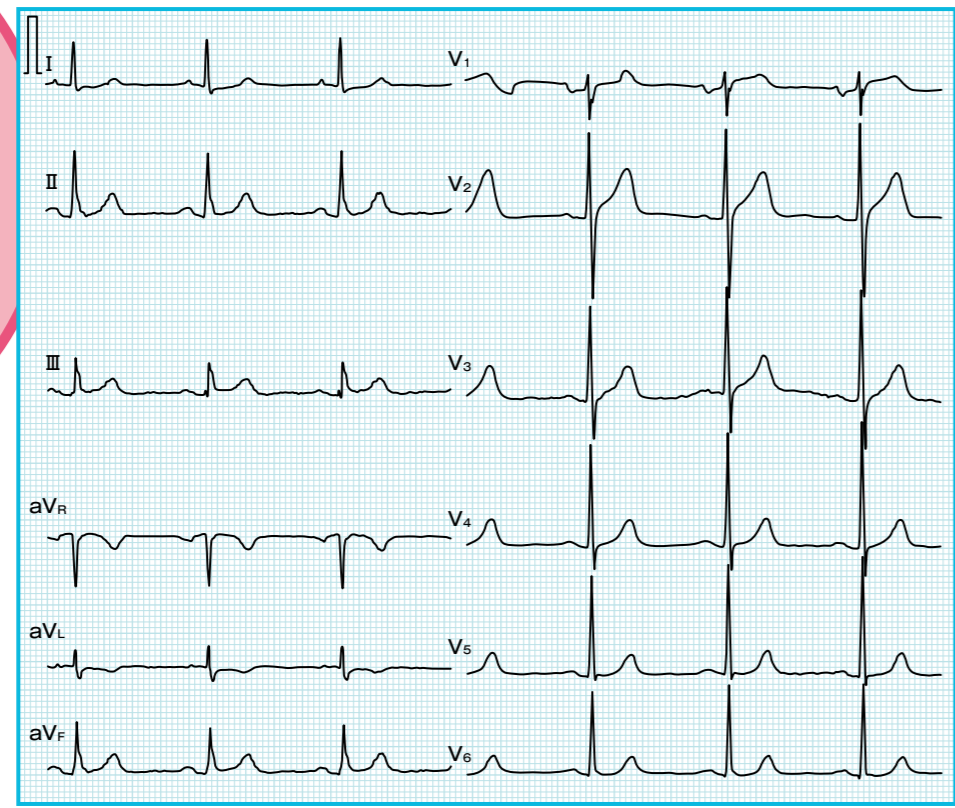


図1 症例1：来院時の心電図

心電図ディスカッション

いよいよ後輩が入ってくるぞ〜！私もしっかりしなきゃ！

おはようございます。もうすぐ後輩が入ってきますね。今どきの若い人たちは……(10分経過)……。

……はい、頑張ります！では、そろそろ始めましょう！

図1は来院時の心電図です。どうですか？

心拍数は63回/分で、リズムは洞調律です。

はい、他には？

V1～V3誘導のSTが上昇しています。

う〜ん、かなり多くの研修医の先生が同じ間違いをしますね。これらの誘導では通常、STがこのような波形ですが、上昇ではありません。

MESSAGE
V1～V2 (V3) 誘導のSTは、しばしば上昇しているように見える。

他には？

軸は正常範囲でQ波、ST-T変化、R波減高やwide QRSなどはなく、PRとQT時間も延長していません。唯一、IとaVL誘導にわずかなST-T変化を認めます。

そうですね。ほぼ正常でよいと思います。ということは？

心臓はまったく問題ないです。

それは魚がたくさん、つまりギョギョギョ(驚き)です。

あっ！そういえば、狭心症は正常心電図が発作時にST低下または、上昇しますね。よって、正常心電図1枚だけでは冠動脈疾患の有無はわかりません。ただし、イベント(梗塞)があれば変化するので、それはまったく生じていないと思います。

いいえ、それもわかりませんよ。軽度のイベントではQ波でなく、ST-T変化やR波の減高が生じます。しかし、それらは経過観察中に消えることがあります。また、近年は冠動脈インターベンション(percutaneous coronary intervention; PCI)が発達し、Q波も数か月後に消えて正常化することがあります。

本当ですか。そうすると、正常心電図1枚のなかに狭心症のみならず、梗塞後も含まれていることになります。こちらもギョギョギョです。

指導医
経験16年目の循環器専門医。最近研修医が優秀なため、今後の活躍に期待していることはここだけの話。

研修医
経験2年目。心電図には慣れてきたが、後輩をどのように教育していくべきかわからず、ひそかに悩んでいる。